

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 西堂 直子 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 特別支援教育の理念と特別支援学校に関する制度との相互の関係を理解する。 ・ 障害のある幼児・児童又は生徒の教育に関する歴史及び特別支援学校の変遷を理解する。 ・ 特別支援教育の思想と理念や実際の特別支援学校の教育との関わりを理解する。 ・ 社会の変化が特別支援学校の教育にもたらす影響と教育政策の動向を理解する。 ・ 教育関係法規を理解し、特別支援学校教育要領・学習指導要領が有する役割・機能・意義を理解する。			
授業の概要			
我が国戦前の障害児教育から戦後の特殊教育そして特別支援教育に至るまでの歴史及び思想を学ぶ。さらに障害者権利条約に基づくインクルーシブシステムの理念について学ぶことで、国際的動向にも視野を広げる。 特別支援教育の思想及び理念と実際の特別支援学校の教育との関わりを学び、特別支援教育政策の動向や教育関係法規そして特別支援学校教育要領・学習指導要領の理解を進める。			
授業計画			
第1回：障害のある幼児・児童又は生徒の教育に関する歴史的変遷 第2回：特殊教育の果たしてきた役割 第3回：障害者権利条約と特別支援教育 第4回：合理的配慮とは何か 第5回：特別支援教育の思想と理念 第6回：特別支援学校が有する機能・役割 第7回：特別支援学校教育要領・学習指導要領の性格 第8回：特別支援学校の自立活動に関する教育課程上の基礎的な考え方 第9回：特別支援学校の教科に関する教育課程上の基礎的な考え方 第10回：重複障害児に関する教育課程の取り扱い 第11回：個別の指導計画と教育支援計画の意義と活用 第12回：カリキュラム・マネジメントの意義について 第13回：関係機関との連携と支援体制について 第14回：家庭との連携と保護者支援の在り方について 第15回：インクルーシブ教育システムとインクルーシブな社会について			

定期試験は実施しない。

テキスト

人権としての特別支援教育（小畑耕作・近藤真理子・宮本郷子編著、文理閣、2022）

参考書・参考資料等

新版キーワードブック特別支援教育（玉村公二彦・黒田学・向井啓二・平沼博将・清水貞夫編著、クリエイツかもがわ、2020）

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）

学生に対する評価

レポート試験（60％）、毎回の授業での課題（40％）

授業科目名： 知的障害児の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古田 直樹、大内田 裕 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 知的障害児の心理・生理・病理の特徴、並びにそれらの相互作用について理解する。 ・ 一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を理解する。 ・ 家庭や関係機関との連携の在り方について理解する。			
授業の概要 知的障害とは何かを概観し、知的障害を原因から理解するために、生理・病理の観点から、知的障害の症状を生じさせる脳のメカニズムの構造と働きを学び、それらが正常に働かない場合にどのような症状につながるのかを学ぶ。 また、知的障害の障害特性や心理的特徴の概要を学び、知的障害のある子どもの幼児期、児童期の発達の道すじやその特徴を心理発達アセスメントと関連づけて学ぶことで、保育・教育に活用する視点を深める。			
授業計画 第1回：知的障害とは何か（担当：古田） 第2回：知的障害の状態や適応行動の困難さ（担当：古田） 第3回：中枢神経系の解剖① 神経系の構造（担当：大内田） 第4回：中枢神経系の解剖② 脳の構造と機能（担当：大内田） 第5回：中枢神経系の解剖③ 脊髄の構造と機能（担当：大内田） 第6回：前頭葉の高次脳機能① 認知的側面の問題（担当：大内田） 第7回：前頭葉の高次脳機能② 情動的側面の問題（担当：大内田） 第8回：側頭葉の高次脳機能 記憶や物体認識の問題（担当：大内田） 第9回：頭頂葉の高次脳機能 触覚機能、空間認識、注意機能の問題（担当：大内田） 第10回：後頭葉の高次脳機能 視覚機能の問題（担当：大内田） 第11回：知的障害児の運動・動作特性（担当：古田） 第12回：知的障害児のアセスメント（担当：古田） 第13回：アセスメントの実際① 発達検査と知能検査（担当：古田） 第14回：アセスメントの実際② 発達診断と発達相談（担当：古田） 第15回：家庭との連携及び家族支援について（担当：古田） 定期試験			

テキスト
必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等
障害医学への招待（杉本健郎・二木康之・福本良之編著、クリエイツかもがわ、2006）
学生に対する評価
定期試験（80％）、授業での課題（20％）

授業科目名： 肢体不自由児の心理 ・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 垂髪 あかり、大内田 裕 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：肢、含む領域：知・病）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 肢体不自由の心理・生理・病理の特徴、並びにそれらの相互作用について理解する。 ・ 一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知特性を理解する。 ・ 家庭や関係機関との連携の在り方について理解する。			
授業の概要 肢体不自由のある子どもの包括的理解のために、身体や神経系の構造、運動の生理学的メカニズムについて基礎的な知識を習得した上で、肢体不自由の起因疾患についての理解を深め、実態把握の方法やコミュニケーション支援の在り方について学ぶ。また、日常生活・学校生活・家庭生活・社会参加・医療的ケアなどの現状や課題を知り、本人や家族が抱える心理的負担について理解する。			
授業計画 第1回：肢体不自由とは何か（担当：垂髪） 第2回：身体の構造（担当：大内田） 第3回：神経系の構造① 中枢神経系（担当：大内田） 第4回：神経系の構造② 末梢神経系（担当：大内田） 第5回：随意運動の生理学的メカニズム（担当：大内田） 第6回：不随意運動の生理学的メカニズム（担当：大内田） 第7回：肢体不自由の起因疾患① 脳性麻痺（担当：大内田） 第8回：肢体不自由の起因疾患② てんかん・神経変性疾患（担当：大内田） 第9回：肢体不自由児の実態把握の方法（担当：垂髪） 第10回：身体的・心理的コミュニケーションの支援の在り方（担当：垂髪） 第11回：心理的要求行動の形成と表出の方法（担当：垂髪） 第12回：肢体不自由児の発達・心理検査と診断の方法（担当：垂髪） 第13回：肢体不自由児の医療的ケアと家族支援（担当：垂髪） 第14回：家庭や医療機関との連携について（担当：垂髪） 第15回：肢体不自由児のADLとQOL（担当：垂髪） 定期試験			

テキスト
肢体不自由教育領域 運動機能の困難への対応（特別支援免許シリーズ）（樫木暢子ほか、建帛社、2021）
参考書・参考資料等
障害医学への招待（杉本健郎・二木康之・福本良之編著、クリエイツかもがわ、2006） ＜ヨコへの発達＞とは何か？障害の重い子どもの発達保障（垂髪あかり、日本標準、2020）
学生に対する評価
定期試験（80％）、授業での課題（20％）

授業科目名： 病弱児の心理・生理・ 病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平賀 健太郎、田中 靖彦 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：病、含む領域：知・肢）		
授業のテーマ及び到達目標 ・病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の心理・生理・病理の特徴、並びにそれらの相互作用について理解する。 ・病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を理解する。 ・家庭や学校間、関係機関との連携の在り方について理解する。			
授業の概要 病弱の概念、病弱児の主たる病気の概要について学び、その特性と状態および対応についての基礎知識を学ぶ。 病気と付き合いながら学び生活する病弱児の心理と行動について子どもの視点から学び、関係機関と連携した支援の在り方について考察する。			
授業計画 第1回：病弱児の概念及び病弱教育の歴史（担当：平賀） 第2回：病弱児の社会性の発達及び認知の特性（担当：平賀） 第3回：アレルギー疾患とその特性及び状態の理解（担当：田中） 第4回：循環器疾患とその特性及び状態の理解（担当：田中） 第5回：慢性疾患とその特性及び状態の理解（担当：田中） 第6回：内分泌系の疾患とその特性及び理解（担当：田中） 第7回：小児慢性特定疾病とその対応について（担当：田中） 第8回：てんかんとその対応について（担当：田中） 第9回：心身症・摂食障害を持つ子どもの生活とその対応について（担当：田中） 第10回：低出生体重児であった子どもへの対応、小児肥満児への対応（担当：田中） 第11回：疾病・障害の自己受容とセルフケア（担当：平賀） 第12回：心理的状态に応じた学習指導の重要性（担当：平賀） 第13回：前籍校への復学を見据えた心理的支援（担当：平賀） 第14回：病弱児の家族支援（担当：平賀） 第15回：病弱児のADLとQOL（担当：平賀） 定期試験			

テキスト
必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等
障害医学への招待（杉本健郎・二木康之・福本良之編著、クリエイツかもがわ、2006） 関係性の発達臨床（山上雅子・古田直樹・松尾友久編著、ミネルヴァ書房、2014）
学生に対する評価
定期試験（80％）、授業での課題（20％）

授業科目名： 知的障害児教育論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西堂 直子
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知、含む領域：肢・病）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 知的障害児の教育における教育課程の意義について、各学部や各段階のつながりの観点から理解する。			
・ 知的障害児教育における教育課程の編成方法とカリキュラム・マネジメントについて理解する。			
授業の概要			
特別支援学校学習指導要領を用い、具体的な指導内容と教育課程の編成について学ぶことで学習指導要領の意義を理解する。			
多様な指導の形態があることを学び、効果的な指導の形態を組織することの必要性を学ぶ。			
個別指導計画の作成方法と活用法について学ぶ。			
授業計画			
第1回：特別支援学校における教育の目標と教育課程の役割			
第2回：特別支援学校幼稚部教育要領と小学部・中学部学習指導要領の意義			
第3回：特別支援学校における教育の目標と小学校・中学校における教育の目標との関係			
第4回：育成すべき資質・能力について			
第5回：各教科別指導と多様な指導の形態			
第6回：各教科の年間指導計画と個別の指導計画の作成			
第7回：知的障害の児童・生徒に対する各教科の指導			
第8回：知的障害の児童・生徒に対する特別活動の指導			
第9回：知的障害の児童・生徒に対する自立活動の指導			
第10回：自立活動の指導における個別の指導計画の作成と評価			
第11回：特別支援学校高等部学習指導要領の意義と教育課程の編成			
第12回：教育支援計画について			
第13回：キャリア教育について			
第14回：教育課程とカリキュラム・マネジメント			
第15回：特別支援学校のセンター的役割			
定期試験は実施しない。			

テキスト

特別な支援を必要とする子どもの理解と教育（茨城大学教育学部障害児教育教室・茨城大学教育学部附属特別支援学校編、クリエイツかもがわ、2019）

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学修指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）

特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

新版キーワードブック特別支援教育（玉村公彦・黒田学・向井啓二・平沼博将・清水貞夫編著、かもがわ出版、2020）

学生に対する評価

レポート試験（60％）、授業での発表（40％）

授業科目名： 知的障害児教育論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西堂 直子
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 知的障害児教育の教育課程を踏まえ、教育実践に必要な知識及び具体的な指導方法について理解を深める。 ・ 具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成し、模擬授業を通して知的障害教育の授業について考えることができる。 ・ 自立活動及び各教科等の指導における配慮事項について理解し、授業設計を行うことができる。			
授業の概要			
学習指導要領における各教科の目標及び内容を学び、教材教具の作成や活用法を学ぶ。その上で、具体的に授業を想定し、指導案の作成及び教材の準備、模擬授業を行う。 模擬授業を基に授業検討を行い、授業づくり、授業改善の視点を身に付けるとともに、自立活動と各教科の違いと関連についても学ぶ。			
授業計画			
第1回：知的障害の幼児・児童・生徒の実態を把握する			
第2回：多様な教育の場と指導の実際			
第3回：特別支援教育におけるチームティーチングの意義と在り方について			
第4回：障害の状態に応じた自立活動の在り方について			
第5回：教材・教具の工夫と実際			
第6回：障害の状態に応じたICT活用について			
第7回：個別の指導計画の作成			
第8回：授業の計画・実施・評価・改善の展開			
第9回：授業検討① 教科の授業検討			
第10回：授業検討② 自立活動の授業検討			
第11回：授業づくり① 指導案を作成する			
第12回：授業づくり② 指導案を発表する			
第13回：模擬授業① 教科の模擬授業と検討			
第14回：模擬授業② 自立活動の模擬授業と検討			
第15回：授業の評価と改善			

定期試験は実施しない。
テキスト よくわかる特別支援教育 第2版（湯浅恭正編、ミネルヴァ書房、2020）
参考書・参考資料等 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省） 特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示 文部科学省）
学生に対する評価 レポート試験（50％）、 模擬授業を含む授業での発表（50％）

授業科目名： 肢体不自由児教育論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加茂 勇、早野 眞美 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢、含む領域：知・病）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 肢体不自由教育の歴史的変遷や現状及び対象となる児童生徒の障害について理解する。 ・ 特別支援学校（肢体不自由）の教育において教育課程が有する意義を理解する。 ・ 特別支援学校（肢体不自由）における教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントについて理解する。			
授業の概要 肢体不自由児教育の歴史と現状について学び、成果と課題について整理する。 具体的な指導内容と教育課程の構造および個別の指導計画の作成方法と活用法について学ぶ。また、教育現場での具体的な医療的ケアの実践内容について学び、医療的ケアの背景と必要性および課題について理解する。			
授業計画 第1回：肢体不自由児の理解（加茂） 第2回：肢体不自由教育の歴史（加茂） 第3回：特別支援学校（肢体不自由）の教育課程①「教育法令における特別支援学校・特別支援学級」（早野） 第4回：特別支援学校（肢体不自由）の教育課程②「特別支援学校の学習指導要領」（早野） 第5回：特別支援学校（肢体不自由）の教育課程③「教育課程編成上の配慮の実際」（早野） 第6回：特別支援学校（肢体不自由）の教育課程④「各教科の指導」（早野） 第7回：特別支援学校（肢体不自由）の教育課程⑤「自立活動の指導」（早野） 第8回：肢体不自由児への医療的ケア①「制度の背景と必要性」（早野） 第9回：肢体不自由児への医療的ケア②「医療的ケアの具体的内容」（早野） 第10回：肢体不自由児への合理的配慮（加茂） 第11回：各教科の年間計画を踏まえた個別の指導計画（加茂） 第12回：個別の指導計画の内容と作成（加茂） 第13回：個別の指導計画とカリキュラム・マネジメント（加茂） 第14回：多職種との連携（加茂） 第15回：まとめ 肢体不自由児教育論の要点（加茂）			

定期試験
テキスト よくわかる肢体不自由教育（安藤隆男・藤田継道編著、ミネルヴァ書房、2015） 特別支援学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）
参考書・参考資料等 肢体不自由教育ハンドブック（下山直人編著、社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団、2010） 乳幼児の運動発達と支援（北村普一、群青社、2013）
学生に対する評価 授業における意見交換（20％）、レポートや確認小テスト（30％）、定期試験（50％）

授業科目名： 肢体不自由児教育論 Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加茂 勇、早野 眞美 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢、含む領域：知・病）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、体験的な活動を通して基礎的な概念の形成を図ることについて理解する。 ・ 各教科等を効果的に学習するために、姿勢や認知の特性に応じて指導を工夫することや、適切な補助具や教材教具の工夫、I C Tを活用することについて理解する。 ・ 自立活動及び自立活動の指導と関連づけて各教科等の学習指導案を作成することができる。			
授業の概要			
障害特性に応じた各教科等の指導における教材教具の工夫や環境整備、姿勢や動きに対する配慮事項について学ぶ。 肢体不自由教育において自助・介助具やI C Tが実際にどのように活用されているのかを知り、具体的授業を想定し、教科及び自立活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。また、さらにそれを基に授業検討を行い、授業づくりと授業改善の視点を身に付ける。			
授業計画			
第1回：肢体不自由教育の現状（早野） 第2回：肢体不自由教育における補助具や補助的手段の理解と活用（早野） 第3回：各教科等の効果的な学習のための姿勢、認知の特性に応じた指導の工夫（早野） 第4回：障害特性に応じた指導の実際① 脳性まひ（早野） 第5回：障害特性に応じた指導の実際② 進行性筋ジストロフィー（早野） 第6回：障害特性に応じた指導の実際③ 重症心身障害（早野） 第7回：障害特性に応じた指導の実際④ 二分脊椎、先天性骨形成不全（早野） 第8回： 障害の状態に応じた教材教具の工夫とI C T活用について（加茂） 第9回：自立活動の指導の展開① 指導案の作成（加茂） 第10回：自立活動の指導の展開② 効果的な学習のための指導法及び教材の工夫についての検討（加茂） 第11回：自立活動の指導の展開③ 模擬授業と検討（加茂） 第12回：各教科の指導の展開① 指導案の作成（加茂） 第13回：各教科の指導の展開② 効果的な学習のための指導法、教材の工夫、自立活動との関連（加茂）			

第14回：各教科の指導の展開③ 模擬授業と検討（加茂）

第15回：まとめと肢体不自由児教育における今日的課題（加茂）

定期試験

テキスト

よくわかる肢体不自由教育（安藤隆男・藤田継道編著、ミネルヴァ書房、2015）

特別支援学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

肢体不自由教育ハンドブック（下山直人編著、社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団、2010）

乳幼児の運動発達と支援（北村普一、群青社、2013）

学生に対する評価

授業における意見交換（20％）、レポートや確認小テスト（30％）、定期試験（50％）

授業科目名： 病弱児教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富永 光昭
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：病、含む領域：知・肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 病弱教育の意義、対象、システム等、病弱教育の理念・システムの基本について理解する。 ・ 病弱教育の個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用、教育課程の編成・カリキュラムマネジメント等、病弱教育の教育内容・方法の基本を理解する。 ・ 児童生徒等が抱えている病気を理解し、個々のニーズに対応した教科指導や自立活動等の基礎的な知識を得ることにより、教育実践に生きる知識の修得をめざす。 ・ 与えられた授業課題に主体的に取り組み、病弱教育の課題を捉える。			
授業の概要			
病弱教育の意義、病弱教育の対象・システム、個別の教育支援計画・個別の指導計画、教育課程の類型、カリキュラムマネジメント等、病弱教育の基礎について解説する。また、病弱教育の教科指導の特色、自立活動の指導、病気の理解教育等についても、具体的事例の提示や映像の視聴、グループワーク等を取り入れて講義する。			
授業計画			
第1回：病弱・病弱教育の捉え方と病弱教育の意義 （映像の視聴と歴史的な視点を加えての解説）			
第2回：病弱教育の対象と病気の理解教育 （対象となる多様な疾患と病気の理解教育の意義について解説）			
第3回：病弱教育の学びの場と教育システム （映像の視聴を手がかりに、病弱教育を担う様々な教育機関、柔軟な教育システムを解説）			
第4回：病弱教育における教科指導の特色 （具体的事例の提示や映像の視聴を踏まえ、病弱教育の教科指導の特色を解説）			
第5回：病弱教育の教科指導における I C T の活用 （具体的事例の提示や映像の視聴を通し、病弱教育の教科指導における V R やロボット等の I C T 活用について解説）			
第6回：病気の認識と自立活動 （6区分27項目の自立活動の基礎、病弱教育の自立活動の位置づけ・意義について解説）			
第7回：病弱教育における自立活動の特色 （自立活動についての具体的事例を交えて解説、ペアワーク）			

第8回：病弱教育における教育課程とカリキュラムマネジメント

（病弱教育における教育課程やカリキュラムマネジメントの基本的考え方を解説し、病弱教育の教育課程編成の取り組みを紹介）

第9回：病弱教育における個別の教育支援計画と個別の指導計画 ＜基礎＞

（病弱教育における個別の教育支援計画・個別の指導計画の特色やその作成・活用のポイントについて解説）

第10回：病弱教育における個別の教育支援計画・個別の指導計画 ＜応用＞

（病弱児の事例によるグループワーク、PISAの観点を踏まえた個別の教育支援計画の修正）

第11回：重度重複障害・医療的ケアの必要な子どもの教育の意義

（映像の視聴・事例、歴史資料に基づく重度重複障害児・医療的ケア児の教育についての解説）

第12回：重度重複障害・医療的ケアの必要な子どもの教育の内容・方法

（日常生活の指導・遊びの指導・自立活動等について発達段階をふまえ解説）

第13回：慢性疾患児の理解と学校生活

（アレルギー疾患のしくみ、喘息やアトピー性皮膚炎の子どもの理解と生活について解説）

第14回：慢性疾患児の教育の内容と方法

（アレルギー疾患の子どもの教育の内容と方法、アナフラキシーショックへの対応について事例を通して解説）

第15回：病弱教育の課題

（復学支援、遠隔教育等病弱教育の課題について解説）

定期試験は実施しない。

テキスト

授業の前に資料をMoodleに掲載。

参考書・参考資料等

特別支援教育の授業の理論と実践（富永光昭他編著、あいり出版、2018）

新しい障がい理解教育の創造（富永光昭編著、福村出版、2011）

学生に対する評価

授業態度（20％）、授業内小レポート（40％）、レポート試験（40％）

授業科目名： 視覚障害教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 豊田 悦子
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：視）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 視覚障害児者の心理・生理・病理の特徴、並びにそれらの相互作用について理解する。 ・ 特別支援学校（視覚障害）の教育における教育課程の意義や編成の方法、並びにカリキュラム・マネジメントについて理解する。 ・ 各教科等の指導における配慮事項について理解し、授業設計を考えることができる。 ・ 視覚障害児者の自立活動の特性を理解し、視覚補助における技能の初歩を習得する。 ・ 家庭や関係機関との連携の在り方について理解する。			
授業の概要			
視覚障害とは何か、視覚障害者の心理・生理・病理の特徴をアイマスクや弱視体験等も取り入れた体験的な学びと関連づけて学び、視覚障害教育における具体的な配慮事項を踏まえた教育課程編成やカリキュラム・マネジメントの方法について学ぶ。また、全盲や弱視といった障害の状態に応じた教育の実際について、点字の読み書きや歩行時の手引きの仕方、それぞれに適した教材教具の活用等の具体的な支援についても学ぶ。一連の学びを通して、視覚障害教育の現状と課題について理解を深める。			
授業計画			
第1回：視覚障害とは（障害の概要、視覚障害者の歴史、視覚障害児の学びの場）			
第2回：視覚障害児者の心理・生理・病理の特徴① 視機能と障害の程度の把握、主要な眼疾患			
第3回：視覚障害児者の心理・生理・病理の特徴② 視覚障害による制限（アイマスク体験）			
第4回：視覚障害児者の心理・生理・病理の特徴③ 認知の特性、発達特徴			
第5回：視覚障害者の生活と点字、点字の歴史、点字の概要			
第6回：点字表記法、点字の読み書き実習			
第7回：視覚障害の状態に応じた視覚補助具・ICT及び触覚教材等の活用① 全盲児の指導			
第8回：視覚障害の状態に応じた視覚補助具・ICT及び触覚教材等の活用② 弱視児の指導			
第9回：障害の程度や発達段階等を踏まえた各教科の指導の基本と配慮事項			
第10回：自立活動の指導			

第11回：歩行指導

第12回：自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科の学習指導案の作成

第13回：教育課程の編成方法とカリキュラム・マネジメント

第14回：視覚障害児者の学校生活とスポーツ・文化、キャリア教育・進路指導

第15回：家庭や医療機関との連携、視覚障害教育の課題

定期試験

テキスト

新・視覚障害教育入門（青柳まゆみ・鳥山由子編著、ジアース教育新社、2020）

参考書・参考資料等

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編・自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
（平成30年3月告示 文部科学省）

新訂版 視覚障害教育入門Q&A（全国盲学校長会編著、ジアース教育新社）

その他、授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（60％）、授業内提出物（20％）、平常点（20％）

授業科目名： 聴覚障害教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 庄司 智子
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：聴）		
授業のテーマ及び到達目標： ・聴覚障害児者の心理・生理・病理の特徴、並びにそれらの相互作用について理解する。 ・特別支援学校（聴覚障害）の教育における教育課程の意義や編成の方法、並びにカリキュラム・マネジメントについて理解する。 ・各教科等の指導における配慮事項について理解し、授業設計を考えることができる。 ・聴覚障害児者に必要となる自立活動とその指導法の基礎を理解する。 ・家庭や関係機関との連携の在り方について理解する。			
授業の概要 聴覚障害とは何か、聴覚障害者の心理・生理・病理の特徴を学び、聴覚障害の程度や特性の把握の方法や、聴覚障害教育における具体的な配慮事項を踏まえた教育課程編成とカリキュラム・マネジメントの方法について学ぶ。また、個別のニーズをふまえた指導と支援の実践について、疑似体験や手話実技、演習等の体験学習も取り入れて学ぶ。一連の学びを通して、聴覚障害教育の現状と課題について理解を深める。			
授業計画 第1回：聴覚障害の生理・病理 聴覚の構造と機能、聴覚障害の種類と分類基準について 第2回：聴覚障害の心理 障害特性、コミュニケーション方法、アイデンティティについて 第3回：聴覚補償・情報保障 聴覚補償、情報保障の方法と基本的考え方、合理的配慮について 第4回：聴覚障害教育の歴史 聾・難聴教育の変遷、聴覚障害児者の教育機関について 第5回：自立活動 聴覚障害教育における自立活動の目的と内容について 第6回：言語指導① 言語の機能、言語獲得過程、言語概念の形成、具体的指導について 第7回：言語指導② 言語指導の実践、言語評価について 第8回：言語指導③ 言語指導の実践（手話指導）と課題について 第9回：聴能教育 聴能教育の目的と意義と指導、聴力検査法の実践について 第10回：発音指導 発音指導の目的と意義、発音明瞭度検査、具体的指導について 第11回：障害の程度や発達段階等を踏まえた教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント			

第12回：障害の状態に応じた学習環境の整備とICT及び教材・教具の活用
 第13回：自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科の学習指導案の検討
 第14回：キャリア教育 発達に即したキャリア教育の編成と指導について
 第15回：家庭や保健、医療、福祉及び労働機関との連携、聴覚障害教育の課題
 定期試験

テキスト

特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援（廣田栄子編著、学苑社、2021）

参考書・参考資料等

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編・自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
 （平成30年3月告示 文部科学省）

教育オーディオロジーハンドブック（大沼直紀監修、立入哉・中瀬浩一編著、ジアース教育新社
 2017）

授業で適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

授業科目名： LD等教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古田 直樹、加茂 勇
			担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び教育指導法に関する科目（中心領域：発達、含む領域：重複）		
授業のテーマ及び到達目標			
・多様な障害（発達障害、情緒障害、言語障害等）について、他の授業で学んだ障害と関連づけながら、重複障害や二次的・三次的な障害について理解し、適切な指導や配慮の在り方について理解する。 ・発達障害（LD、ADHD、ASD）の特徴について理解し、特性把握のための方法や家庭や関係機関との連携の在り方を理解する。 ・発達障害および重複障害のある児童の教育課程及び指導法について理解する。			
授業の概要			
発達障害（LD、ADHD、ASD）の特徴と感覚や認知・行動面の特性の把握、家庭や関係機関との連携について学ぶ。その上で、通級指導教室や特別支援学級等での発達障害のある子どもへの指導について、教育課程やカリキュラム・マネジメントも含めて学ぶ。また、適切な対応がなされない場合に生じる二次的・三次的な障害についても学ぶ。 さらに、情緒障害や言語障害についても理解した上で、特別支援学校の対象である諸障害（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）の重複した状態の概要を学び、重複障害のある子どもへの指導について、教育課程に基づいた組織的・計画的なカリキュラム・マネジメントについても学ぶ。 個々の特性に応じたICTの活用及び教材教具の工夫と学習環境の整備について学び、発達障害や重複障害のある子どもへの具体的な授業を想定した学習指導案の作成や授業改善の視点について学ぶ。			
授業計画			
第1回：支援の必要な子どもの多様性について（担当：古田）			
第2回：発達障害の理解① LDについて（担当：古田）			
第3回：発達障害の理解② ADHDについて（担当：古田）			
第4回：発達障害の理解③ ASDについて（担当：古田）			
第5回：発達障害の理解のための家庭および関係機関との連携について（担当：古田）			

第6回：発達障害の教育課程（担当：加茂） 第7回：発達障害の教育課程の編成方法とカリキュラム・マネジメント（担当：加茂） 第8回：発達障害の指導の実際（担当：加茂） 第9回：二次的・三次的な障害について（担当：加茂） 第10回：情緒障害、言語障害の理解と支援（担当：加茂） 第11回：重複障害の理解と支援（担当：加茂） 第12回：重複障害の教育課程の編成方法とカリキュラム・マネジメント（担当：加茂） 第13回：個々の特性に応じた指導を図るためのICTや教材・教具の活用と環境整備（担当：加茂） 第14回：発達障害・重複障害の個別の指導計画の作成（担当：加茂） 第15回：発達障害・重複障害の授業の評価と授業改善の視点（担当：加茂） 定期試験は実施しない
テキスト よくわかる発達障害（小野次郎・上野一彦・藤田継道編、ミネルヴァ書房、2010）
参考書・参考資料等 教師になるための特別支援教育（田中良三・湯浅恭正・藤本文朗編著、培風館、2020） シリーズ 子ども理解と特別支援教育ー障がいをもつ子どもを理解することから（森博俊・大高一夫・横尾澄子・天沼陽子編著、群青社、2018） 発達障害の教育学ー『安心と自尊心』にもとづく学習障害理解と教育指導（窪島務、文理閣、2019） 読み書きの苦手を克服する子どもたちー『学習障害』概念の再構築（窪島務、文理閣、2005） よくわかる障害児教育（石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次編、ミネルヴァ書房、2020） よくわかる言語発達（岩立志津夫・小椋たみ子編、ミネルヴァ書房、2020）
学生に対する評価 レポート試験（100%）